

わたし

かつてわたしはそこで
若草色の衣をまとった少年になった
妖精と子供たちに囲まれ笑う
おとなになることは忘れてしまっていた

かつてわたしはそこで
新緑の湖畔に佇む純白の馬になった
静謐な森とひんやりとした湖水に
独りぼっちの心は癒された

かつてわたしはそこで
黄金の麦の上を飛ぶ漆黒の鳥になった
飢えを満たそうと飛ぶわたしは
不吉な影のように観られていた

かつてわたしはそこで
銀色のオルガンを弾くマイスターになった
ステンドグラスの光線のなか
かれの祈りを奏で続けていた

そこでのわたしは
他のものだが
依然として
「私」であった

仁光